

# 現地視察

森林・里山と林業の現状

日時：平成23年8月20日（土） 10:00～15:00

講師：近藤 稔（名古屋大学大学院生命農学研究科助教）

## 概況



### ◎森林・里山と林業の現状

#### 1. 現地視察1（高性能林業機械による間伐実施林）

高性能林業機械プロセッサ、フォワーダを用いた森林施業を行う現場を見学した。

#### 2. 現地視察2（足助町木材協同組合（丸棒加工施設））

丸棒加工の現場を視察した。丸棒の利用拡大をどのようにしていくかが、今後の課題となっている。

#### 3. 現地視察3（豊田森林組合木材センター）

「安心安全な暮らしは誰が担うのか」というテーマで、森林整備の重要性や木材流通の課題について、豊田森林組合の方から話していただいた。

#### 4. 日本の森林施業についての講義（近藤 稔助教）

##### ・人工林

木材を生産するために造成された森林のこと。人工林の木材生産や公益機能の維持のために人間は森林施業を行う。森林施業計画に従い、木材の収穫や育林などの諸作業が実施される。

##### ・伐出（伐採搬出）作業と林業機械

伐出の各作業（倒木→集材→造材→運材）を行うために様々な林業機械が開発さ

れている。伐出作業を効率よく行うために、林業機械の組み合わせ(作業システム)をいかにしていくかが重要である。

#### ・処理作業時間の比較

1 本の木にかかる処理作業時間(伐倒+造材)は、機械化により大幅にカットできる。ただし、伐倒作業において、日本のような急斜面の多い地形では、チェーンソー以外の機械(ハーベスタ)の利用が困難であるため、作業時間の短縮は、造材にかかる時間の短縮によるものである。造材作業は、高性能林業機械プロセッサやハーベスタを用いることで、作業時間を極端に短縮させることができる。

#### ・労働災害

林業における労働災害は依然として高いものの、機械化により労働災害が減少した。

#### ・丸太生産費

丸太生産費は、林内路網密度を高めることで抑えることができる。木材価格が低迷する中、生産性を高めるために、路網密度の充実が必要だろう。